

大和郡山城下町として大切にしたい建物50選

～「登録有形文化財 杉山小児科医院」聞き取り調査の記録～



【建物概要】

建物名称：杉山小児科医院

所在地：本町

当初の用途：医院

現在の用途：サロン

建造時期：

【診療棟】大正後期

【居住棟】昭和初期

構造規模：木造

【診療棟】平屋建一部2階建

【居住棟】2階建

（調査日：平成26年8月30日）

【建物現況と周辺状況】

平成18年に登録有形文化財へ登録されて以来、春と秋に建物内部の一般公開を実施している他、展示会やコンサート等の会場として活用されています。周辺に多く残る郡山の伝統的町並みの中、西洋風建築としての外観を有する杉山小児科医院は、旧城下町北部のランドマーク的存在となっています。

【歴史的特徴と建築的特徴】

ハーフティンバー様式の外観やキングポストトラスで構成された小屋組を有する診療棟と、アールデコ風の良質な装飾を有する居住棟から、時代・世代の好みの対比が感じられます。



【建物の歴史・暮らしの様子・所有者の思い】

この建物は、郡山町（大和郡山市の前身）時代に、産婦人科医院として上田友三郎さんにより建設されました。

昭和38年に、杉山武一さん（現在の建物所有者・杉山武浩さんの父）が土地と建物を取得し、内科医院として利用を始められました。

杉山家がここに転居してきた当時、武浩さんは医師になって間もない頃でした。当初は建物に対する印象や思い出も特になかったそうですが、建物を建てた人以上に建物を使い、修理も重ねていくうちに建物に対する愛着が募り、父・武一さんが存命中に跡を継ぎ、小児科医院を開業されました。

現在は医院を閉院し、サロンとしての本格的な活用を模索されています。元々が医院建築であり、住居として建てられた建物ではないため、「今後、自らが住む」というより「これからどのような利用が可能か？」について考えておられます。

